

東京都立八王子桑志高等学校 令和6年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業	科目：	デザイン材料実習	単位数：	2	指導学年：	2
使用教科書	無し	副教材	無し				

年間指導目標：

さまざまな素材に触れ、それぞれに合った加工方法を習得する。また道具の使い方も学び、安全かつ正しい使い方を習得しながら授業を進める。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	<ul style="list-style-type: none"> 素材に対応した立体造形の基礎。 金属の特性とジュエリー作りの基礎。 七宝焼きの技法。窯を使用した造形。 手び練による陶芸の演習。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特性と加工法、安全対策。 金属特性を利用したジュエリーの意匠。 配色と焼成時間を考えた七宝づくり。 陶芸粘土の特性を生かした生活用品のデザイン。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席、態度等の授業取組の状況。 学習内容の理解と成果物への反映。 課題提出状況。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	ジュエリー制作 ・洋白板材の指輪制作	(知)	<ul style="list-style-type: none"> 指輪制作の基礎。材料理解とサイズ合わせ。 洋白板の材料特性。 加工法の基礎。真鍮との違い。 		○		○	○	12
			(思)	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特性を理解している。 用途と材料特性を理解した意匠図案を作っている。 加工法を理解して作品を造形している。 		○		○	○	
			(態)	<ul style="list-style-type: none"> 出席、態度等の授業取組の状況。 学習内容の理解と成果物への反映。 課題提出状況。 		○		○	○	
1 学期	期末 考査	ジュエリー制作 ・洋白板材の装飾品制作	(知)	<ul style="list-style-type: none"> 材料硬度の違い。特性を生かした造形法。 より発展的な金属の加工法。 仕上げのための加工技術。 		○		○	○	12
			(思)	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特性を生かして発展的な作品を作る。 ジュエリーとしての機能を考えた造形。 講評による作品制作の振り返り。 		○		○	○	
			(態)	<ul style="list-style-type: none"> 出席、態度等の授業取組の状況。 学習内容の理解と成果物への反映。 課題提出状況。 		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	テラコッタ(陶芸) 手び練加工による植木鉢の 制作	(知)	<ul style="list-style-type: none"> ・テラコッタ(素焼加工)の概要。 ・特性の理解。焼成温度による色の違い。 ・器としての用途の理解。 		○		○	○	16
			(思)	<ul style="list-style-type: none"> ・手び練による造形の応用。 ・器としての用途を考えた意匠と造形。 ・機能性と美しさを考える。 		○		○	○	
			(態)	<ul style="list-style-type: none"> ・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。 		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	エッチング 七宝焼作品制作のための腐 食による金属加工	(知)	<ul style="list-style-type: none"> ・七宝焼き材料の理解。 ・炉と焼成温度、発色の違い。 ・金属特性と腐食時間の理解。 		○		○	○	16
			(思)	<ul style="list-style-type: none"> ・完成後の作品を考えたアイデア展開。 ・材料特性を生かした発想。 ・七宝焼き焼成の為、凹凸の位置を考えたエッチ ング加工。 		○		○	○	
			(態)	<ul style="list-style-type: none"> ・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。 		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	七宝焼 エッチング加工からの七宝 焼焼成加工。	(知)	<ul style="list-style-type: none"> ・金属とガラスの粉の特性。 ・電気炉による焼成の習得。 ・特性と焼成時間を利用した作品作り。 		○		○	○	22
			(思)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス粉の特性を理解し、作品に活かしてい る。 ・焼成時間による発色の違いを活かしている。 ・完成後の仕上げも密度が高い。 		○		○	○	
			(態)	<ul style="list-style-type: none"> ・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。 		○		○	○	
									合計	78